

MICEが日本を元気にする

特別座談会

国際会議が日本経済発展の鍵

～国際会議の誘致を日本政府観光局(JNTO)がサポート～

今年、G20サミットが日本で初めて開催される。このサミットでは首脳会議のほか関係閣僚会合が日本全国で行われ、関係者やプレスなど総勢約3万人が宿泊、その経済効果は極めて高いものになる。国際会議には、このような経済効果以外にイノベーションの創出や次世代育成など多くのメリットもある。この国際会議の誘致活動を強力にサポートするのが、日本政府観光局(JNTO)だ。JNTOは、外国人の訪日旅行促進に向け、一般観光のプロモーション、マーケティングに加え、国際会議を含むMICE*1の誘致活動を行っている。国際会議がビジネスや経済にどのような効果をもたらすか、JNTO理事長と2人のMICEアンバサダー*2が語りあった。

モデレーター：川崎悦子氏(日本政府観光局 MICEプロモーション部 部長)



日本政府観光局(JNTO)理事長 清野智氏



東京大学生産技術研究所教授 中埜良昭氏 MICEアンバサダー



豊橋技術科学大学 情報メディア基盤センター教授 井佐原均氏 MICEアンバサダー



日本政府観光局(JNTO) MICEプロモーション部 部長 川崎悦子氏 モデレーター

日本のアピールや経済効果に期待

日本での国際会議の開催状況から説明ください。

清野/2017年日本では414件の国際会議が開催され、アジア・太平洋地域で6年連続トップです。しかし中国をはじめとする他国も国際会議誘致に力を入れています。日本は世界をリードする学術・産業の知識と人材が集まり、ホスピタリティにあふれ、治安も良いという強みがあります。今後はさらに産官学のオールジャパン体制で誘致に取り組む必要があります。

井佐原先生は、言語情報学を研究されており、近年はAIを活用した機械翻訳を開発されています。国際会議を何度か誘致されていますが、国内開催の効果をとどのようにお考えですか。

井佐原/2018年に1200人規模の「言語リソースと評価に関する会議」を宮崎で開催しました。これまでに高松や松江でも国際会議を開催しました。言語情報学はもと日本がとて強かったのですが、近年はAI活用にシフトし、米国や中国に差をつけられています。中国の中で初の日本開催となり、日本の技術を海外に示すことができました。日本の若い研究者にとっても世界的な研究に直接触れる機会が、学術的なレガシー効果が大きく大変有意義でした。最近ではWeb会議などが一般的になっていますが、Face to Faceで議論を戦わせ、刺激を受けて、新たな発想が生まれる。この化学反応のようなものこそ、大きな意味があると考えています。

井佐原/国際会議は一般観光に比べて参加者の滞在期間が長く、また交流イベントなども併催されるため、開催地に大きな経済波及効果を生みだします。日本にはたくさんの都市があるため、それぞれ魅力があり、例えは「言語リソースと評価に関する会議」では、夜のレセプションを宮崎神宮で行い約1000人の方にご参加いただきました。参道に屋台を設置、巫女舞の奉納を行うなど、海外の出席者が国際会議に参加しながら、郷土料理を食し、日本の文化に触れ、地元の人と交流する機会を提供できました。清野/宮崎神宮のように特別な場所が、レセプション会場として利用できるのは、参加者にとっても貴重な経験となるでしょう。地方自治体は現在「ユニークベニュー」としてこういった特別な空間をイベントで活用できるように開発を進めています。中埜先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

比べ参加者の滞在期間が長く、また交流イベントなども併催されるため、開催地に大きな経済波及効果を生みだします。日本にはたくさんの都市があるため、それぞれ魅力があり、例えは「言語リソースと評価に関する会議」では、夜のレセプションを宮崎神宮で行い約1000人の方にご参加いただきました。参道に屋台を設置、巫女舞の奉納を行うなど、海外の出席者が国際会議に参加しながら、郷土料理を食し、日本の文化に触れ、地元の人と交流する機会を提供できました。清野/宮崎神宮のように特別な場所が、レセプション会場として利用できるのは、参加者にとっても貴重な経験となるでしょう。地方自治体は現在「ユニークベニュー」としてこういった特別な空間をイベントで活用できるように開発を進めています。中埜先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

中埜先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

ビジネスにつながる取り組みもあつたと伺いました。井佐原/宮崎の会議では、我々と共同研究をしている企業が外国人向けに観光用のスマホアプリを提供しました。評判もよく、アンケートを実施し企業もフィードバックを得られました。国際会議の場を通じて企業の研究に役立つ事例です。現在、先端産業の研究開発は中国と米国が進んでいますが、AIは基礎技術であり、日本が世界のリーダーシップを取るべきだと考えます。国際会議は新しい研究をキャッチしビジネスチャンスを見出す場です。社会のニーズを促すことで、研究者が課題を解決、そして企業が実用化する。国際会議に企業もぜひ参加してビジネスチャンスにつなげて欲しい。

中埜/2020年の世界地震工学学会では、防災対策技術展「BOSAI EXPO(防災エキスポ)」を同時開催予定です。これに参加すれば、普段海外と取引のない企業でも、グローバルな人脈ができ、海外ビジネスの足掛かりが得られます。スポンサードセッションも設け、協賛企業の防災技術を紹介する機会も提供します。今は世の中が近視眼的になっていますが、長期的な取り組みも必要です。通常の国際会議では研究発表が中心ですが、今度の会議では、若手研究者を中心に30年、50年先の地震防災研究はどうあるべきかを議論する場を設けます。ぜひ、企業の方も参加し、世の中の危機感を共有して、製品開発に活かしていただきたい。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

井佐原先生は、2020年に世界地震工学学会を開催されますが、開催都市に仙台を選ばれたのはなぜですか。

国際会議の日本開催には経済効果と共に、学術的にも多くのメリットがあります。

日本学術会議 会長、MICE アンバサダー 山極 壽一 氏



日本学術会議は、昭和28年から国内で開催される学術に関する国際会議の中で、特に重要と認められ、優先度の高い分野横断的な会議を、学術研究団体と共同で開催し、我が国における国際会議の開催をリードしてきました。昨年までの65年間で、312件の開催実績があります。長年にわたる開催実績から、私としても実感できるメリットが3つあります。それは、①世界トップレベルの研究者の招へい・交流を通じた国内研究者の育成と学術振興 ②国際的な学術研究団体との組織的な交流による、研究者のネットワーク構築と国際親善 ③市民公開講座開催による、研究成果の社会への還元です。国際会議の開催は、科学技術の発展にとって、極めて重要な役割を担っています。

日本開催の国際会議は各国の超一流の研究者たちとネットワークを持てる大きなチャンスです。

京都大学IPS細胞研究所 所長、ノーベル生理学・医学賞受賞 山中 伸弥 氏



今、多くのアジアの国々が科学においても重要な成果を次々に出しておりますので、大規模な国際会議をアメリカやヨーロッパだけではなく、アジアの、特に日本で行うことは重要だと考えています。日本はアジアの中にあつて諸外国、特にアメリカから見ると正に玄関口になります。その意味からも日本での開催は有意義だと思っています。日本は、戦後すぐの頃から、多くの研究者が欧米に留学するなどして欧米の超一流の研究者たちと長きに渡って親交を深めてきました。日本だったら知り合いがいる、だから行きたいとたくさんの研究者に言っていたと思います。そういった個人的なつながりを基にした、親密で豊かな関係性の存在こそが、日本の強みだと思います。

国際会議へのご相談はこちらへ JNTOは、非営利団体として、日本で国際会議開催を計画されているみなさまへお手伝いを実施しております。お気軽にご相談ください。 https://mice.jnto.go.jp/ TEL: 03-6691-4852 E-mail: convention@jnto.go.jp 第28回国際MICEエキスポ IME2019 The 28th International MICE Expo Japan 開催日: 2019年2月28日(木) 会場: 東京国際フォーラム(ホールE2) 主催: 日本政府観光局(JNTO) 一般社団法人日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB) https://www.ime2019.jp/